

身」ではなく自ら率先して

大規模災害時に「受け
動ける人材を育成する防災
研修会が十九日、日進市の

被災者の手記読み追体験

名学芸大など 市民交え防災研修会



日赤職員（右から2人目）が見守る中、手記から学んだことを話し合う参加者＝日進市の名古屋学芸大で

名古屋学芸大であった。同
大地域連携推進研究機構と
日赤県支部（名古屋市東
区）の共催。

研修会は全三回。初回の
この日は、一九九五年に発
生した阪神淡路大震災の被
災者の手記を通して災害を

追体験し、災害のイメージ
を明確化する「災害エスノ
グラフィ」が行われた。

研修会には、同大の学生
と教員、市民の十四人が参
加。兵庫県西宮市で被災し
た女性が震災直後から避難
生活までの様子や思いを記
した手記を読み、「初めて

知ったこと」や「重要だと
思ったこと」を各自、色マ
ーカーで塗り分けた後、四

グループに分かれて発表。
「災害直後は、公助が期待
できないと知った」「自衛
は一人の力ではどうにもな
らないので、普段からのつ
ながりが大切」などの意見
が上がった。

講師の日赤職員は「発災
時は即断即決できる人、避
難所生活時はコミュニケー
ション能力の高い人がリー
ダーとして必要となる」と

話し、リーダーの役割や重
要性を説明した。同支部が
日進市に配備する救護資機
材の展示もあった。

受講した同大三年の林彩
那さん(三)は「これまで避
難は、受け身の姿勢で考え
ていたけれど、主体的に動

く大切さを感じました」と
話していた。

十一月の二回目は地図を
見ながら災害をイメージす
る「DIG」研修、来年二
月の最終回は災害時高齢者
支援講習短期講習を行う予
定だという。(平木友見子)